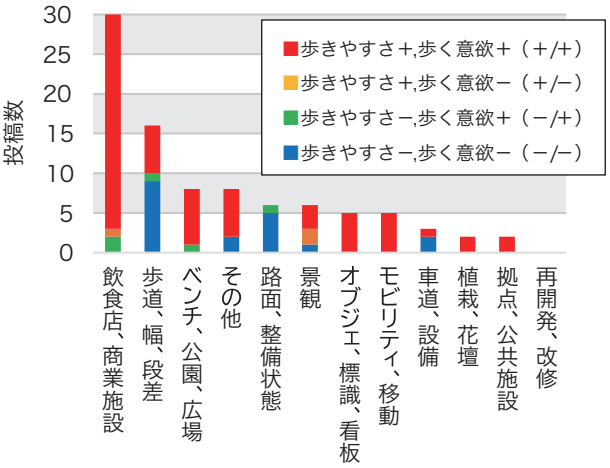
03

ウォーカブルシティの実現に向けた歩く意欲に影響を及ぼす要因分析のための市民参加型調査

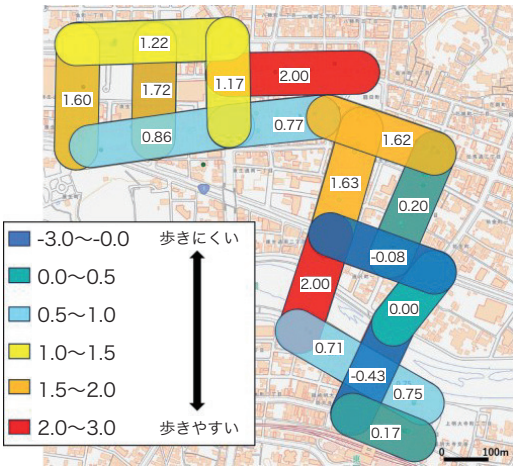
藤岡 友美*1・佐藤 大樹*1・金 炅敏*1・宮本 美哉*2・小平 倫子*3

Citizen-Participatory Survey for Analyzing Factors Affecting the Motivation to Walk Towards the Realization of a Walkable City

Tomomi FUJIOKA, Taiki SATO, Kyoungmin KIM, Mika MIYAMOTO and Tomoko KODAIRA



気づき投稿の分類



街道ごとの歩きやすさの可視化

研究の目的

近年, 人口減少や少子高齢化などによる地域経済の縮小や地域の活力低下が懸念されており, 都市の魅力向上や賑いの創出など地域活性化が課題となっています。そのため, 今後のまちづくりではウォーカブル(歩きやすい, 歩いて楽しい)な人中心の空間への転換が期待されています。また, ウォーカビリティの向上はまちの活性化や市民の健康増進, 防災など多様な社会課題の解決策となることが期待されています。

本調査では, ウォーカブルなまちづくり計画のための設計ノウハウの蓄積を目的として, 実際に市民と共にまちを歩きながらウォーカビリティに影響を及ぼす物理的･心理的要因について調査を行いました。

技術の特長

本調査は, スマートフォンのウェブアプリケーションを利用して, 歩行者がどのような場所で歩きやすさや歩く意欲を感じるかを調査しました。市民の方に参加いただき, 岡崎市内のまち歩き中に気づいたことがあった際, その場で写真を撮影してタイトルを入力し, ①幸せを感じるか, ②歩きたいと思うか, ③歩きやすいと感じるかについて-3~+3までの6段階で評価してもらいました。実際のまちを歩いてリアルタイムに投稿されたデータを分析することで, 歩行者にとっての物理的･心理的なウォーカビリティに影響する要因を明確にすることが可能になります。また, 街道ごとに歩きやすさなどの評価点の平均値をとることで, 空間としての性能を見える化することが可能になります。

主な結論と今後の展開

調査の結果, 以下のことが明らかとなりました。

- 段差がないことや歩道の幅, 路面の整備状態, 車両の数などの物理的な安全要因に加えて, 植栽などの緑の管理状態や景観, まちの賑いなどの感性に訴える要因がウォーカビリティを向上させるために重要である。
- 歩きたいと感じた際に, 人は歩きやすいと感じる。
- 歩きやすさなどの評価の可視化は, 都市空間のウォーカビリティ評価手法として利用できる可能性がある。

今後は, 気候･時間･参加者の属性を変えて調査を実施し, より多くのデータを収集して検証することで, ウォーカビリティに影響する要素を明確に特定し, 都市のウォーカビリティを評価する手法の構築を目指します。

＊1 技術センター イノベーション戦略部 技術開発戦略室
＊2 中部支店 営業部(開発)
＊3 営業総本部 営業推進･ソリューション本部